

29)「群馬県桐生市内(旧山田郡内)の
石仏2例における、歯痛の民間信
仰について」

On "A Popular Belief of Toothache in the
Two Cases about A Stone Buddhist Image
in Kiryu City (Former Yamada District),
Gunma Prefecture"

池園歯科研究会 ○湯浅 高之
藤野 瑠男
小林一日出
日本歯科大学 屋代 正幸

Takayuki Yuasa, Yoshio Fujino, Kazuhide
Kobayashi, Ikezono dental research group
Masayuki Yashiro, The Nippon Dental Uni-
versity

昨年の第20回日本歯科医史学会学術大会におい
て、群馬県利根沼田地方の「みそなめ仏」とその
民間信仰について、口演発表した。まだこの他
に、群馬県下の他地区において、このような石仏
や民間信仰が未だに存在し、伝承されている事例
の存否を確認することとした。各地の市誌や郡誌
を参考に現地調査をしてみると、都市部の郊外や
郡部には、わずかではあるが細々と伝承されてい
る事例が散見された。

今回は、桐生市郊外の旧山田郡相生町の寺院境
内に安置される石仏2例について、その伝承例を
報告する。

- ①桐生市相生町 天王院「歯仏様」
② 同 大善寺「^{はいた}歯痛の神様とよばれ
る如意輪観音」

この2例は、その形状は異なり、天王院の歯仏
様は石塔墓に近い形で、大善寺の^{はいた}歯痛の神様は石
仏の形状である。これらは、推測の域は出ない
が、建立された当初の願意は、直接的に歯痛との
関連性はなかったように思われる。しかし、いつ
の頃からか^{はいた}歯痛の時に参拝すると効験が現われ、
痛みがやわらぐと口承されてきている。そうし
て、現在でも町の古老は参拝に訪れることもある
ようだ。

このような歯科にまつわる民間信仰の事例は、
民族学的にも大いに興味がそそられる事なので実
地調査した。かくして、これに類似した習俗を、
神津文雄著『民族への旅、歯の神様』の事例と比
較検討し考察を加えたので報告する。

30) 明治年代におけるベストセラーの
医書—日本薬局方備考について

On the Note of the Japan Pharmacopoeia
which was the Best Seller in the Meiji Time

日本大学松戸歯学部 ○石橋 肇
米長 悦也
金子 守男
池田かのり
鈴木 邦夫
谷津 三雄

Hajime Ishibashi, Etsuya Yonenaga, Morio
Kaneko, Kanori Ikeda, Kunio Suzuki and
Mitsuo Yatsu, Nihon University School of
Dentistry at Matsudo

『日本薬局方備考 全』は、著作者兼発行者 飯
高芳康、青木純造、著作者独逸国チウビンゲン府
大学留学小比木信郎の共著で、明治20年2月1日
版權免許、同年5月25日第1版発行、同年10月18
日改正第2版、同21年8月5日訂正第3版発行、
…明治43年12月増訂第31版、全1,682ページ(国
立国会図書館蔵)の発行から明治時代におけるベ
ストセラーの医書と考えられる。演者らの一人谷
津が架蔵する本書は1)改正増補第3版(明治21
年8月6日発行)、本文1~372ページ、備考附録
373~744ページ、19×13cm大、洋本、朝香屋書
店ほか6店から発行され、金1円50銭、2)第10
版(明治24年6月22日発行)、第1薬局方篇272ペ
ージ、第3実地治療篇215ページ、第3医家備考
篇、484ページ、全977ページ、朝香屋書店ほか8店
から発行され金1円50銭、3)第14版(明治27年
10月1日発行)、第1薬局方篇384ページ、第2実
地治療篇189ページ、第3医家備考篇440ページ、
全1,013ページ、朝香屋書店ほか11店で発行され、

金1円50銭，特別売価金1円，および4）第17版（明治30年7月6日発行）は一大改正第17版と標記し，第1薬局方篇515ページ，第2実地治療篇233ページ，第3医家備考篇326ページ，全1,074ページ，朝香屋書店ほか13店から発行され，金1円50銭である。これら第3版，第10版，第14版，第17版の4冊を参考資料とし，その内容について述べる，第3版の例言から“紙數第一版ニ比スレバ一倍ニ達ス”とあり，初版は約370ページと思われる。なお，この増ページは○本書ノ附録ハ「メヂチナル，カーレンデル」附録ノ体裁ニ倣ヒシモノニシテ醫家ノ備忘参考ニ供スベキ必要ノ事項ヲ集載シタリ此第三版ニ於テハ大ヒニ増補訂正ヲ加ヘ第二版ニ掲ケザル左ノ十二篇則チ電氣應用法…」とあり，「附言」に「本書題名ハ日本藥局方備考ト稱スルヨリハ寧ロ醫家備考ト題スルノ穩當ナルニ如カズ」から知ることができる。さらに「本書ノ医家ニ便益ナルヤ 第一版ハ 客年五月下旬發行シ同年十月初旬第二版ヲ發シ未ダ幾ナラザルモ今ヤ第三版ノ發行ヲ要セシヲ以テ知ル」から初版以来大変に売れた本であることを知る。第十篇の例言から「本年五月發布シ改正セラレタル日本藥局方ノ全文ニ從テ本書ノ藥局方篇ニ載セタ」「○本書ニ掲ケアル實地治療篇ニ於テハ内科…齒科及精神病等ノ治法及處方ヲ掲ク…」とあり，齒科に齒痛，齒齦息肉，齒齦炎，鵝口瘡，蝦蟇腫，顔面神經麻痺，三叉神經痛，舌炎などが収載されている。「醫家備考篇ハ醫家實地臨床ノ便ト醫學生諸氏ノ學習備忘ノ益ヲ計レル」とし，全身麻酔，人工呼吸法，注射法，臨床検査などがみられる。なお，この「醫家備考篇」は「前版ヨリ掲ケ來レル」の一文から第九版からのものであることを知る。そして，「○本書ハ出版ヲ重ルニ從ヒ益益醫家ノ好評ヲ博シ初版發行以來茲ニ三年有餘ニ乗ントスルノ今日早ク己ニ第十版ヲ發行スルニ至レリ此ノ如ク醫籍中，稀有ノ賞讃ヲ得タルハ偏ニ讀者諸氏ノ希望ニ背カサルノ結果ナラザル可ケンヤ」から本書がいかにか好評を博したかを知りうる。

第14版の例言に「第十三版ニ著大ノ改正増補ヲ加ヘ出版セル所ニシテ初版以來益醫家ノ好評ヲ博

シ實ニ醫籍中，稀有ナル出版ノ數ヲ加ヘ今ヤ第十四版ヲ發行スル」とある。本書は第1薬局方篇，第2実地治療篇，第3医家備考篇よりなり，各篇ごとに目次をイロハ順にし，実地施療の便を計っている。

第17版は飯高芳康，青木純造，小比木信郎編纂となり「一大改訂第十七版例言」に「最モ著大ノ改定増補ヲ加ヘタル所ニシテ」から「一大改訂」とした理由を知る。「本版ニ於テハ大イニ改訂シタルヲ以テ前版ニ對照シテ知ルベキカ如ク本書ノ面目ヲ全ク一變シ實ニ一新書ノ觀ヲ呈セリ…本版ニ於テハ此藥局方篇ニ最モ著大ナル改正増補ヲ加ヘ簡便ナル藥方書タラシムルノ目的ヲ以テ各藥ニハ各其生理的作用ヲ掲ケタルノミナラス其主治及用法，用量等ハ勉メテ詳細ニ記載シ…新ニ數十ノ圖ヲ加ヘ以テ醫家治療上ノ便益ヲ計リ…本版ニ於テハ藥局方篇ノ終末ニ局方外ノ重要藥品四十余种ヲ掲ケテ讀者參考ノ便益ヲ計レリ…實地治療篇ニ於テハ獨逸諸大家ノ處方書ニ由リテ内科，外科，眼科，産科，婦人科，耳科，齒科及精神病等ノ治法及處方ヲ掲ク殊ニ本版ニ於テハ前版ニ對照シテ知ルベキガ如ク各病ノ治法及處方ニ増補ヲ加エタル所頗ル多シ…醫家備考篇ハ隨時須要ノ便覽ニ供スルノ目的ヲ以テ醫家實地臨床ノ便ト醫學生ノ學習備忘ノ益ヲ計リ實地診療上必要ノ事項七十餘章ヲ掲ケタル者ニシテ本版ニ於テハ其各章ニ改訂ヲ加ヘ新タニ二十餘章…本篇ノ醫家及學生諸氏ニ便益ナルハ更ニ喋々之ヲ辯セザルモ讀者ノ已ニ知ラルル所ナリ…本版ニ於テハ頗ル顯著ノ改正ヲ施セルヲ以テ紙數一千百餘頁（前版ヨリモ三百頁増加）挿圖二百餘個（前版ヨリモ一百餘圖ノ増加）ヲ算スルニ至レリ此ノ如ク本版ニ於テモ亦顯著ノ改正増補ヲ施シ以テ醫家醫學生諸氏ノ渴望ニ副ウト云爾」でこの例言は結ばれている。これら4冊を参考資料とし，その内容について報告したい。